

子どもの権利条約フォーラム 2015 分科会 企画一覧

【1部：9:30～11:00】

企画①	被災地での子どもと遊びについて考えよう		
趣旨・内容	東日本大震災から石巻の子どもとの遊びや居場所作りの実践報告、またそれを受けて、災害時の子どもと遊びについて考える分科会。基調報告とパネルディスカッションを予定。		
企画概要	テーマ	被災地石巻での子どもと遊びの実践から	
	対象年代	だれでも	対象人数 20人
企画団体	NPO 法人にじいろクレヨン	担当者	柴田滋紀
企画団体概要	宮城県石巻市を拠点に、被災した子どもたちのための活動（居場所作り、遊び場作り）を続けています。2012年 NPO 法人認証。		

企画②	参加型のアクティビティを通して学ぶ子どもの権利条約		
趣旨・内容	国連・子どもの権利条約についての〈入門編〉としての分科会。イラストや写真をつかったゲームやワークショップを通して、権利とは何か、それを行使する（つかう）のは誰か、また、条約の4つの柱（生きる権利、守られる権利、育つ権利、参加する権利）などについて、話し合いながら考え学んでいく場にしていきたいと思ひます。		
企画概要	テーマ	子どもの権利条約を参加型のアクティビティを通して学んでいく	
	対象年代	だれでも	対象人数 24名
企画団体	子どもの権利条約ネットワーク	担当者	南雲勇多
企画団体概要	子どもの権利条約を普及・啓発、実現するため、子どもとおとなのパートナーシップを理念として掲げながら、講座の実施や、各団体や実践とのネットワーキングを推進。		

企画③	ファブリックアート「いしのまきの物語」をつくろう!~オリジナル缶バッジづくり~		
趣旨・内容	星や海のモチーフや線が重なったイメージの布から、すきな部分を切り取って缶バッジに仕立てます（作った缶バッジはお持ち帰りいただけます）。11月7日8日に石巻市で行う予定のワークショップ（子供たちが布に思い思いの線などを描き、シルクスクリーンプリントする）で出来た布を使用します。また、そこで制作した作品も展示します。（10/23～11/23に石巻市内を会場に行うアート展の一環として開催いたします）		
企画概要	テーマ	障がい者、障がい児、子ども、おとななどの自由な表現や交流の場づくり	
	対象年代	だれでも	対象人数 20人
企画団体	NPO 法人エイブル・アート・ジャパン	担当者	武田和恵
企画団体概要	障害のある人をはじめ、生きにくさを抱えている人たちと共に、主に、障害の種別や有無をこえて、芸術文化活動を通して、自らを自由に表現する場やしくみをつくること、作品を発表したり、販売する環境を整えること、美術作品や舞台芸術作品などにさまざまな手段を用いてアクセスするための機会と環境を整えることなどの事業を行い、誰もがそれぞれの違いが尊重しあい、その存在が認められる、真の意味での豊かな社会の実現に貢献、寄与することを目的とする。		

企画④	石巻発「子どもの声を社会にとどける仕組み」とは？		
趣旨・内容	子どもは社会の一員です。でも、子どもの声はどれだけ社会に届いているのでしょうか？東日本大震災という非常事態において、子どもたちの意見を聞きたいという声が国内外から多く寄せられ、石巻では子どもの意見を聞く活動が多く起こりました。平常時から、子どもの声が社会に届き、子どもの視点で社会の問題を解決するにはどうしたらよいか考えます。		
企画概要	テーマ	子ども視点で社会の問題を解決する仕組みをつくるには？	
	対象年代	だれでも	対象人数 30人
企画団体	一般社団法人キッズ・メディア・ステーション	担当者	太田倫子
企画団体概要	子どもたちによる表現活動・情報発信活動を支援し、つくる力（表現力）・つたえる力（コミュニケーション力）・つながる力（行動力）を育むことを活動の目的とし、2012年3月11日より季刊で「石巻日日こども新聞」を発行。		

企画⑤	子どもの貧困と居場所 ～子どもたちの声から～		
趣旨・内容	震災から4年半が経ち、被災地でも生活に困窮する世帯の子どもたちへの支援が急務となってきましたが、一方で「子どもの貧困大綱」「子どもの貧困対策法」など国をあげてこの課題に取り組む動きも活発になってきました。この動きの中で、私たちが大切にしていかなければならないことは何か。当事者の子どもたちと一緒に考えていきます。		
企画概要	テーマ	子どもの貧困・居場所・奨学金	
	対象年代	だれでも	対象人数 50人
企画団体	NPO 法人 TEDIC	担当者	門馬優
企画団体概要	震災直後の2011年5月に設立。被災も含めた生活困窮世帯の子どもたちへの学習支援、生活支援、不登校の子どもたちを対象としたフリースクールの運営を行っている。		

企画⑥	18歳選挙権解禁！ みんなで考える社会参加とは？		
趣旨・内容	選挙権年齢が18歳以上へと引き下がることが決まり、若者の政治・社会への参画についての議論が進んできました。一方で、制度上のみの変化に留まらず実際に若者を社会の力にするにはどうすれば良いのかはまだ展望が明らかではありません。この分科会では18歳選挙権をトピックとしながら、子ども・若者みんなで政治や社会や街について考えていきます。		
企画概要	テーマ	18歳選挙権	
	対象年代	子ども・ユース	対象人数 30人
企画団体	NPO 法人 YouthCreate	担当者	原田謙介
企画団体概要	「若者と政治をつなぐ」活動を全国で展開。学校での出前授業の企画実践も行う。原田は18歳選挙権に際し、国会で参考人として招致され、高校へ配布される副読本の執筆者でもある。		

企画⑦	東日本大震災と不登校～親の居場所・親の対応		
趣旨・内容	不登校後の不安やきつさに、震災による被災が重なり、子どもの状況について何をどうかんがえたらいいのか、支援の在り方をみなさんと一緒に考えます。		
企画概要	テーマ	不登校・東日本大震災・親の関わり	
	対象年代	おとな ※保護者向け	対象人数 30人
企画団体	NPO 法人東京シューレ	担当者	奥地圭子・萩原美奈子・佐藤信一
企画団体概要	1985年より、学校外の居場所・学び場としてフリースクールを運営。		

企画⑧	アドラー心理学 勇気づけ育児のすすめ		
趣旨・内容	子どもたちが自分に能力を感じ、人々を仲間と思うことで権利行使の主体である自覚を持ってくれよう勇気づけるアドラー心理学の育児プログラムを紹介します。		
企画概要	テーマ	勇気づける育児とは	
	対象年代	おとな	対象人数 30人
企画団体名	アドラー心理学学習グループ	担当者	澤田裕子
企画団体概要	日本アドラー心理学会に所属し、学会認定のカウンセラーおよび家族コンサルタントが中心になった学習グループ。		

企画⑨	ボンボンカフェ ～赤ちゃんがまんなかの復興まちづくり～		
趣旨・内容	震災を受けて多職種多世代による「お産と子育てにつよいまちづくりプロジェクト」からできた「ボンボンカフェ」※bond(絆)born(産まれる)の雰囲気の中で、緊急時、平常時における赤ちゃんのパワーについて、母子支援の活動を紹介しながらディスカッションします。		
企画概要	テーマ	子育て	
	対象年代	だれでも	対象人数 20人
企画団体	ベビースマイル石巻	担当者	荒木裕美
企画団体概要	宮城県石巻にてマタニティ～未就園児親子の子育て支援を行う		

企画⑩	国連・子どもの権利委員会による第4回報告書審査に向けて		
趣旨・内容	国連・子どもの権利委員会への第4回報告書の提出期限が来年5月に迫っています。社会権規約委員会（2013年）から行なわれた震災・原発関連勧告なども参照しつつ、条約実施の課題についてあらためて振り返ります。		
企画概要	テーマ	子どもの権利の国際動向／3. 11／フクシマ	
	対象年代	おとな	対象人数 30人
企画団体	子どもの権利条約ネットワーク、子どもの人権連	担当者	平野裕二
企画団体概要	子どもの人権連と子どもの権利条約ネットワーク（NCRC）は、それぞれ1986年・1991年の発足以来、条約の普及・促進、国内外の動向に関する資料・情報の収集などに取り組んできた団体です。		

【2部:11:20～12:50】

企画①	～すごろくで楽しみながら子どもの意見も聞かせて～		
趣旨・内容	子ども権利条約の普及とともに子どもにとって良いまちづくりについて参加者とともにすごろくを行いながら議論していきます。グループごとに分かれアイスブレイキングをした後、石巻市の地図をもとに作りあげたすごろくをします。(権利条約を読む、議論をするといった指令をクリアしながら全員のゴールを目指していきます。)すごろくが終わり次第こちらが用意しておくテーマ(まちづくりと子どもたちの居場所について)の議論や感想の共有をします。これを90分かけて行うのが今回の内容です。この企画で取り扱う子どもにとって良いまちづくりは私たち喜多ゼミが半期かけて研究してきたものでこの分科会でみなさんに発信していこうと考えております。		
企画概要	テーマ	まちづくりと子どもたちの居場所	
	対象年代	だれでも	対象人数 20人
企画団体	早稲田大学文化構想学部社会構築論系喜多ゼミナール	担当者	横田泰典
企画団体概要	喜多ゼミナールでは子ども支援とまちづくりについての文献研究や適宜に「まちづくり」フィールドワークをグループおよびゼミ全体で行っています。前期では子どもにとっての居場所(遊ぶ場、学ぶ場、休む場、相談する場)について学んで、そこからまちにどんな施設とか制度があると子どもにやさしいかを考え深めております。		

企画②	国際協力と子どもの権利		
趣旨・内容	動画を見たり、シーライツの事業地であるカンボジアのタナオコミュンでの取り組みの紹介などを通し、グループで感想や意見を共有しながら子どもの権利とは何か、子どもの権利をベースとした国際協力にはどのようなものがあるかなどについて考えていきます。		
企画概要	テーマ	子どもの権利をベースとした取り組みとは？	
	対象年代	だれでも ※小学5年生世代以上	対象人数 30人
企画団体名	認定 NPO 法人 国際子ども権利センター(シーライツ)	担当者	西岡あゆみ
企画団体概要	チャイルドライツベース・アプローチ(子どもの権利基盤アプローチ)による子どもやコミュニティのエンパワメントを軸に国際協力。国内では啓発活動や開発教育の活動を実施。		

企画③	東北の子どもたちのまちづくり～震災から4年半たって～		
趣旨・内容	岩手県山田町、陸前高田市、宮城県石巻市の「子どもまちづくりクラブ」で活動する子どもたちが、各地域の現状や復興に向けて自らが取り組んでいる活動を発表。発表後は参加者との意見交換も予定しています♪2011年6月、「夢のまちプラン」を描くことからはじまった子どもたちの活動。震災直後から4年半どのようにまちづくりに取り組み、どんなことを感じてきたのでしょうか？東北の子どもたちの「生の声」を聴ける機会です！		
企画概要	テーマ	子どもの主体的な活動、まちづくり	
	対象年代	だれでも ※小学5年生世代以上	対象人数 30人
企画団体	公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	担当者	津田 知子
企画団体概要	セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(SCJ)は、子どもの権利の実現に向けて活動する国際子ども支援NGO。2011年SCJが行った調査で、岩手・宮城の約1万人の子どもが「まちのために何かしたい」と思っていることが分かり、子どもたちとともに「子どもまちづくりクラブ」を開始。		

企画④	『学校』ってもっとおもしろい！～つながろう！学ぼう！成長しよう！			
趣旨・内容	『学校』は、もっとおもしろく、楽しい場所です。おもしろく、楽しい場所でなければなりません。学校は、先生や誰かが「面白く」「楽しく」してくれるのでなく、自分たちでもっと楽しくできることです。多くの友達や地域の大人と、かかわりつながり、お互いの自己選択と自己決定を尊重し合いながら協働的に学ぶことで、授業がそのまま社会参画への練習になります。そして。それは「面白く」「楽しい」。そんな教室、学校作りに向けての提案をします。これからの教室、学校の姿について考え合いましょう。			
企画概要	テーマ	「一人も見捨てない」教室、学校に～『学び合い』授業の提案～		
	対象年代	だれでも	対象人数	30人
企画団体	『学び合い』宮城	担当者	本川良（二俣小）五嶋理（金津中）	
企画団体概要	西川純（上越教育大学）教授の提唱する『学び合い』の授業を実践する教員グループ			

企画⑤	ちがいをたのしむ、アートを楽しむ			
趣旨・内容	5,6人のグループで絵を見て覚えてそれを再生する(描く)。それぞれのこだわりや得意なことをいかして共同で書くので、ちがいがあること、排除したり、わけないことのメリットを共に感じ合うワークショップ			
企画概要	テーマ	発達しょうがいに分けるのではなく、いろいろな子のいる良さを実感してほしい		
	対象年代	だれでも ※3才以上	対象人数	20人
企画団体名	NPO 法人こそだち応援あそびっこ	担当者	近藤真理子	
企画団体概要	幼児期にとらわれず、育ちの意見・権利を尊重した子育て支援を行っている。学習会なども実施している。			

企画⑥	経験者が語る不登校			
趣旨・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の経験シンポジウム ・改訂版 不登校の子どもの権利宣言発表 ・質疑応答、意見シェアの時間 			
企画概要	テーマ	不登校・学校		
	対象年代	だれでも	対象人数	30人
企画団体	不登校の子どもの権利宣言を広めるネットワーク NPO 法人東京シュール	担当者	彦田来留未(権利ネット代表) 萩原美奈子(東京シュール)	
企画団体概要	2009年に不登校の子どもの権利宣言を作成、不登校に関わる全国合宿で発表後、様々なイベントを通して発信している。			

企画⑦	若者の思いを形にする伴走者とは？		
趣旨・内容	震災の復興のプロセスで重要な役割を果たしている地域の「子ども・若者」たち。被災した東北沿岸3県では、高校生が中心となり、自分たちの生活する地域の課題を洗い出し、解決策を考え、実行するプロジェクトが多く立ち上がりました。そんな高校生たちを支え、また一緒に思いを形にしていくための、「おとな」の役割について考えます。		
企画概要	テーマ	子ども参加	
	対象年代	だれでも	対象人数 30人
企画団体	公益財団法人東日本大震災復興支援財団	担当者	相内洋輔
企画団体概要	被災地の子ども支援に関わる団体を助成する「子どもサポート基金」、高校生対象給付型奨学金「まなべる基金」などを通じて、被災地の子どもたちとその家族を支援している。		

企画⑧	被災地における児童クラブの現状と課題		
趣旨・内容	石巻市内外の児童クラブの現状と課題を発表し、課題の解決について話し合う		
企画概要	テーマ	放課後児童クラブ	
	対象年代	だれでも	対象人数 30人
企画団体	児童クラブを考える会	担当者	寶鈴子
企画団体概要	放課後児童クラブについて問題意識をもつ仲間が研究や実践を通して、課題解決に取り組んでいる。		

企画⑨	メディア漬けから子どもの権利を考えよう～世界一寂しい笑顔のない子どもたち！～		
趣旨・内容	子どもの心身ともに健やかな成長に、過剰なメディアに接触する生活はどんな影響を及ぼしているのか、また、その解決のためについて、子ども&大人と一緒に考える場とする。 まず、国立病院機構仙台医療センター小児科医師である田澤雄作氏から話題提供して貰い、実状を知る。その上で、子どもと大人双方から意見を出してもらい対応策を考えていきたい。子どもたちからはなぜ過剰なメディア漬けになってしまうのかの視点で、大人は子どもを守るという視点で、車座になり話し合う。		
企画概要	テーマ	医療・あそび	
	対象年代	だれでも	対象人数 30人
企画団体	NPO 法人せんだい杜の子ども劇場 東日本大震災圏域創生 NPO センター (いしのまき寺子屋)	担当者	太田美智子
企画団体概要	せんだい杜の子ども劇場：子どもたちが子ども時代を心豊かに過ごすことができる環境づくりを目的に活動。東日本大震災後、毎年「あそびの広場 in 石巻」を開催している。 いしのまき寺子屋：石巻高校避難所から生れ、子ども達の声を企画の中心に置き子ども子育て支援を行っています。		

企画⑩	東日本大震災を未来へ～防災・減災ワークショップ 「命を守る」～		
趣旨・内容	震災を体験した被災地の子どもとして「自助」「共助」「連携」そして「備え」の大切さを発信していきたいと考え、2013年仙台市教育委員会「元気アップ事業」の助成をいただき、NPO法人FORYOUにこの家が新防災副読本を活用した防災教育を願って開発したワークショップ「命を守る」を袋原中学校区で同世代の小中高生を対象にワークショップを実施している。また石川県輪島市や国連防災世界会議テーマ館「市民協働と防災」では子どもから大人までを対象に実施した。「東日本大震災を未来へ」伝えたいと願い、震災の風化を防ぐ活動をしていきたい。		
企画概要	テーマ	東日本大震災を未来へ	
	対象年代	だれでも	対象人数 30人
企画団体	チーム東中田っ子・仙台市東四郎丸児童館	担当者	狩野・小岩
企画団体概要	袋原中学校区の小中高生のボランティアチーム。2007年から東四郎丸児童館と共に地域を元気にする活動をしている。今年度は15名。地域のお祭りやイベントに参加したり、自分たちで「星空コンサート」「ピカソの日」「3・11えがお」などを企画・運営している。		

企画⑪	被災地からの発信—災害時子どもの権利をどう守るか —東日本大震災における行政・NGO・NPO等の連携と子どもの権利条例		
趣旨・内容	東日本大震災時に発生した子どもへの権利侵害の実態を踏まえ、行政、NGO、NPO等の日ごろの連携をどう作るか、防災計画等に「子どもの権利」をどう位置づけるか、それらを包括する「子どもの権利条例」のありかたを考える。基調報告とパネルディスカッションを予定。宮城県子ども支援会議参加団体の紹介パネル展示予定。		
企画概要	テーマ	非常時こそ大切に考えたい「子どもの権利」—そのための日ごろの備えは？	
	対象年代	だれでもどなたでも、 ※特に子どもの参加歓迎	対象人数 100人
企画団体	宮城県子ども支援会議	担当者	小林純子
企画団体概要	東日本大震災後、宮城県義務教育課がNGOからの物資支援調整のために設置した会議。現在も継続して月1回県庁内で開催され、行政とNGO、地元NPOが宮城県の子どもの問題について、情報交換をしている。		